

安全データシート

作成日 2019年8月1日

1.製品及び会社情報

製品名	にかわ
会社名	東工薬株式会社
住所	東京都中央区東日本橋2-16-7 ANNI東日本橋ビル6F
担当部署	八潮工場
住所	埼玉県八潮市木曽根744
電話	048-996-9235
FAX	048-997-2597
原料メーカー	株式会社ショウセイ (工業用ゼラチンM-400)

2.有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	分類できない
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類対象外
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類できない

有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分外
急性毒性（経皮）	区分外
急性毒性（吸入・ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入・蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入・粉じん）	分類できない
急性毒性（吸入・ミスト）	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷及び	
眼刺激性	分類できない
呼吸器感受性	分類できない
皮膚感受性	区分1
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性	区分外（単回暴露・反復暴露）
吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水生環境有害性（急性）	分類できない
水生環境有害性（慢性）	分類できない
絵表示又はシンボル	



注意喚起語	なし
危険有害性情報	アレルギー性皮膚反応を起こす恐れ。 吸入するとアレルギー、喘息、呼吸困難を起こす恐れ。
注意書き	
予防策	使用前に取扱説明書を入手し、すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 指定された個人用保護具（安全帽、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具、保護手袋、保護衣、安全靴など）を着用すること。

対応	<p>取扱った後、手、顔などよく洗うこと。</p> <p>加熱溶融した製品に触れないこと。</p> <p>粉じん、ヒューム吸引を避けること。</p> <p>ミストや蒸気の吸入を避けること。</p> <p>屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。</p>
保管	<p>屋内で直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。</p> <p>開封後は、必要量のみ取り出し、ゴミ、水などが入らないようにする。</p>
廃棄	
GHS分類に該当しない他の危険有害性・重要な徴候	特になし
想定される非常事態の概要	特になし
国/地域情報	なし

3.組成成分情報

単一成分・混合品の区別	混合物
化学名（一般名）	ゼラチン・にかわ系接着債
成分及び含有量	ゼラチン・にかわ等 100%
危険有害成分	シリカ 1%未満
	CAS No.7631-86-9
	PRT法 対象外
	労安法 対象化学物質 (No.312)
	毒劇物取締法 対象外

GHS分類に寄与する不純物及び安定化添加物	<p>アレルギー性皮膚反応を起こす恐れ。</p> <p>吸入するとアレルギー、喘息、呼吸困難を起こす恐れ。</p>
-----------------------	---

4.応急措置

吸入した場合	<p>直ちに空気の新鮮な場所に移し、毛布などで保温して安静にさせ、速やかに医師の手当てを受ける。</p> <p>呼吸が停止している場合は人工呼吸を行い、呼吸困難な場合は酸素吸入を行う。</p>
皮膚に付着した場合	<p>汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を水又は温水で流しながら洗浄する。</p> <p>外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は直ちに医師の診断を受ける。</p>

眼に入った場合	<p>清浄な水で最低15分間眼を洗浄した後、すぐに眼科医の手当てを受ける。</p> <p>洗眼の際、瞼を指でよく開いて、眼球の隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。</p> <p>コンタクトレンズを使用している場合は固着していない限り取り除いて洗浄する。</p>
飲み込んだ場合	<p>水で口の中をよく洗浄する。コップ1～2杯の水又は牛乳を与え、胃内で薄めてもよい。</p> <p>体を毛布などで覆い、保温して安静を保ち、直ちに医師の診断を受ける。</p> <p>必要に応じて人工呼吸や酸素吸入を行う。</p> <p>呼吸していて嘔吐がある場合は、頭を横に向ける。</p> <p>意識がない場合、口から何も与えてはならず、吐かせようとしてはならない。</p>
最も重要な徴候及び症状	粉じんや水溶液が皮膚に付着した場合、アレルギー性皮膚反応を起こす恐れがある。
応急処置をする者の保護 医師に対する特別な注意事項	保護眼鏡、手袋、長袖作業衣等の保護具を着用する。 特になし

5.火災時の処置

消化剤 使ってはならない消化剤 火災時の特定危険有害性	<p>水（初期消火）、粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂。</p> <p>大規模火災の場合、水は使用してはいけない。</p> <p>燃焼又は熱分解により炭素酸化物、窒素酸化物、その他の有害ガスが発生することがある。</p>
特定の消化方法	<p>付近の着火源を断ち、保護具を着用して消化する。</p> <p>消火後は、製品の内部が冷却するまでロープを張り、人の立ち入りを禁止する。</p>
消火を行う者の保護	<p>消火作業の際には、保護眼鏡、保護衣、状況によっては有毒ガスを吸い込まないように呼吸用保護具を着用し、風上から消化作業を行う。</p>

6.漏洩時の処置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	<p>暴露防止のため、保護具を着用して作業を行い、粉じんの吸入や皮膚への接触を防止する。</p>
環境に対する注意事項	<p>流出した製品が河川などに排出され、環境への影響</p>

除去方法	を起こさないように注意する。 少量の場合は水又は温水にて洗い流す。 大量の場合は容器にできる限り集める。残りは水又は温水にて洗い流す。
二次災害の防止策	特になし。

7.取扱い及び保管上の注意

取り扱い	
技術的対策	専用の溶融機及び塗布機を使用する。使用温度は製品説明書に示す範囲内とする。
局所排気・全体換気	粉じん、蒸気を発散する取扱い場所には局所換気装置を設置すること。
注意事項	容器の破損につながる粗暴な取扱いをしない。
安全取扱い注意事項	容器を転倒、落下、引きずる又は容器に衝撃を加える等の粗暴な取扱いをしない。水濡れ厳禁。手鉤を愛用しない。
保管	
技術的対策	屋内の倉庫に保管すること。
適切な保管条件	高温を避けて、室内に保管すること。 開封して必要量を取り出した後は、ゴミ、水などが入らないようにする。
安全な容器包装材料	特になし。

8.暴露防止及び保護措置

設備対策	専用の塗布機を用いることが望ましい。粉じん、蒸気を発散する取扱い場所には、局所排気装置を設置すること。
管理濃度	設定されていない。
許容濃度	設定されていない。
保護具	
呼吸器用の保護具	保護マスク
手の保護具	綿製保護手袋、耐熱手袋
眼の保護具	普通眼鏡、側板付き眼鏡、ゴーグル型保護眼鏡
皮膚及び体の保護具	長袖作業衣、安全靴
適切な衛生対策	作業後手をよく洗い、うがいをしてから飲食等をする。

9.物理的及び化学的性質

物理的状态

形状	固体（粉末状）
色	黄褐色
臭い	にかわ臭
pH	7±1
融点（軟化点・環境法）	38℃
沸点、初留点・沸騰範囲	データなし
引火点	適用外
自然発火点	データなし
燃焼性	データなし
燃焼又は爆発範囲の上限下限	データなし
蒸気圧	データなし
蒸発速度	データなし
比重	1.1～1.5
分解温度	データなし
溶解性	水に溶解
オクタノール/水分配係数	データなし
その他のデータ	なし

10.安定性及び反応性

安定性	通常取り扱い条件においては安定。
反応性	水の存在下では、加水分解を起こすが、乾燥状態で加熱された場合は、不溶化する。
避け得べき条件	使用温度は、製品説明書に示す使用温度以上にしないこと。
混触危険物質	強酸化剤と接触すると、火災の危険をもたらす。
危険有害な分解生成物	データなし
その他	情報なし

11.有害性情報

急性毒性	データなし
皮膚腐食性/刺激性	知見なし
眼に対する重篤な損傷性	
刺激性	知見なし
呼吸器感作性/皮膚感作性	体質によってはアレルギー症状を示す場合がある。

生殖細胞変異原性	知見なし
発がん性	知見なし
生殖毒性	知見なし
特定標的臓器毒性	知見なし (単回暴露・反復暴露)
吸引性呼吸器有害性	知見なし
その他	知見なし

12.環境影響情報

生態毒性	知見なし
魚毒性	知見なし
残留性/分解性	知見なし
生態蓄積性	知見なし
土壌中の移動性	知見なし
その他の有害情報	知見なし

13.廃棄上の注意

都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に内容を明確にして、処理を委託する。洗浄水等の廃液は凝集沈殿、活性汚泥などで処理することができる。

その他、水質汚濁法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の定めるところに従う。

包装容器を廃棄するときは、産業廃棄物として処理又は回収にまわす。

14.輸送上の注意

国際規制	
国連分類	国連の定義上危険物に該当しない。
国連番号	該当しない
品名 (国連輸送品名)	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
特別の安全対策	特になし
国内規制	消防法、船舶安全法など法令の定めるところに従う。
輸送の特定の安全対策及び条件	容器の破損、漏れがないことを確認し、衝撃、転倒、落下、破損のないように積み下ろしを行い、荷崩れの防止を行う。

応急措置指針番号

直射日光を避けて輸送する。
該当なし

15.適用法令

労働安全衛生法

16.その他情報

この製品は、工業用目的に製造していますので、食用には使用できません。